

「Waste Management 2016 Conference」 参加報告

笹川剛*1

2016年3月6日から3月10日の日程で、放射性廃棄物の処理処分に関する国際会議”Waste Management 2016 Conference”がアメリカ合衆国アリゾナ州フェニックスにおいて開催された。本会議は今年で42回目であり、昨年度は約30カ国、2000名の参加者が世界中から集った。本年度も同規模の開催と考えられる。また、本年度は500件以上の論文と134件のテクニカルセッションと討論会が提供された。本会議の特徴は、放射性廃棄物の処理・処分に特化している点はもちろんのこと、ASMEなどの主要な学術組織から独立して運営されている点や、学生の教育に熱心な点が挙げられる。具体的には、学生の参加費が一般的の参加者と比較して、格別に安く設定されていたり、優秀な学生に対しては高額なスカラシップが用意されていたりする。また、本会議の特徴として、毎年、特定の国に焦点を当たたプログラムが組まれており、本年度は英国に焦点を当たたセッションが多く組まれた。そこでは、英国における放射性廃棄物の処分計画に関する概要や技術について最新の状況を網羅的に知ることができ、大変興味深い内容だった。また、来年度の会議では日本に焦点が当たられる予定であり、日本からの参加者も増えることが予想される。さらに、本会議の特徴として企業ブース出展の充実が挙げられる。本年度は152の企業、研究機関などが出展しており、興味のある企業ブースを聞いて回るだけでも、1日以上を費やしてしまうだろう。



写真：会議の様子

そのような中で、私が特に興味深かったセッションは、若い研究者や学生が放射性廃棄物の処理・処分の将来について討論するセッションで、登壇された方は皆女性で、活発に研究や事業に取り組む姿が特に印象的であった。将来に対する希望や不安など、感じていることは日本の学生と変わりないが、置かれている状況に対しアグレッシブに向

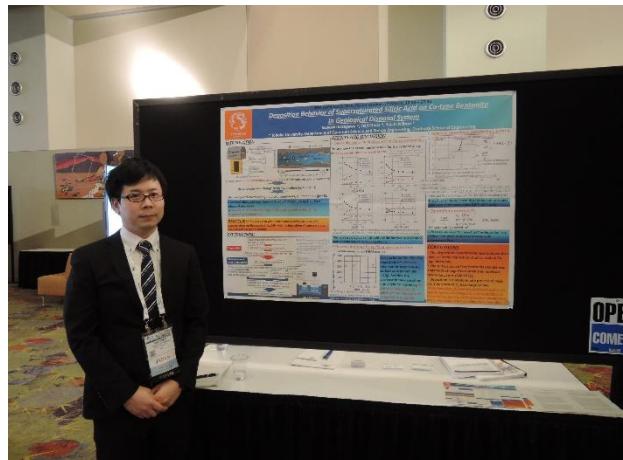
Report of "Waste Management 2016 Conference" by Tsuyoshi SASAGAWA
(sasagawa314@michiru.qse.tohoku.ac.jp)

*1 東北大学大学院工学研究科量子エネルギー工学専攻
Department of Quantum and Science Engineering, School of Engineering,
Tohoku University.
〒980-8579 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-01-2

き合う姿勢に大きな刺激と、世界には我々と同じように日々悩み、葛藤している学生が多くいることに嬉しい気持ちになった。

会議全体としては、諸外国における放射性廃棄物の処理・処分関連の動向や技術開発の紹介も多く、さながら各国、企業の威信をかけた見本市のようで、一見和やかな雰囲気の中に、日本では普段得られない熱気を体感することができた。特に、今まで知る機会のなかったカナダやブルガリアなどの廃棄物の処理・処分に関する情報を得ることができ、大変興味深かった。

また、私は、”Deposition Behavior of Supersaturated Silicic Acid on Ca-type Bentonite in Geological Disposal System”というタイトルでポスター発表を行った。ポスター発表は、各オーラルセッションが行われる会議室入口の目の前の大きな廊下で行われるため、絶えず人の往来の多い環境であった。発表時間は3時間30分に亘り、15名の方と議論を交わすことができた。その中で、Ca型ベントナイトの比表面積の変化や核種の吸着機構について貴重なご意見を賜り、本研究を今後進めるにあたり新たな視点を得ることができた。また、特に海外の方と議論をする場合においての発表手法についても改善点を見出すことができ、会議全体を通して今後に繋がる大変有意義な機会となった。



写真：ポスター発表の様子

謝辞

本会議の参加には、バックエンド部会による海外発表助成制度による補助を受けて参加・発表を行い、この先に続いていく研究や研究者として生きていく上で、日本では得難い大変貴重な経験をすることができた。改めて感謝の意を表す。

